

平成30年度 財政状況資料集

総括表（市町村）

都道府県名	福岡県		市町村類型	Ⅲ-2		指定団体等の指定状況		区分		平成30年度(千円)	平成29年度(千円)	区分		平成30年度(千円・%)	平成29年度(千円・%)																																																																																																																																																																																							
	福岡県	福岡県		Ⅲ-2	Ⅲ-2	財政健全化等	×	歳入総額	5,797,756			5,706,205	実質収支比率			6.2	5.7																																																																																																																																																																																					
市町村名	桂川町		地方交付税種地	2-4		財源超過	×	歳出総額	5,587,148	5,485,093	経常収支比率	97.8	96.1																																																																																																																																																																																									
人口	27年国調(人)	13,496	産業構造(※5)		首都	×	歳入歳出差引	210,608	221,112	(※1)	(102.7)	(101.0)																																																																																																																																																																																										
	22年国調(人)	13,863			近畿	×	翌年度に繰越すべき財源	8,511	34,461	標準財政規模	3,273,617	3,281,421																																																																																																																																																																																										
	増減率(%)	-2.6			中部	×	実質収支	202,097	186,651	財政力指数	0.41	0.40																																																																																																																																																																																										
住民基本台帳人口(※7)	31.01.01(人)	13,535	第1次	27年国調	167	182	歳入歳出比率	15,446	21,549	公債費負担比率	10.9	11.2																																																																																																																																																																																										
	うち日本人(人)	13,430		22年国調	2.8	3.1	積立金	1,251	1,379	健全化判断比率																																																																																																																																																																																												
	30.01.01(人)	13,671	第2次	低開発			繰上償還金	0	0	実質赤字比率	-	-																																																																																																																																																																																										
	うち日本人(人)	13,584		指数表選定	○		積立金取崩し額	0	0	連結実質赤字比率	-	-																																																																																																																																																																																										
	増減率(%)	-1.0					実質単年度収支	16,697	22,928	実質公債費比率	3.9	4.1																																																																																																																																																																																										
	面積(km ²)	20.14		第3次	4.238	4.197	基準財政収入額	1,170,382	1,144,052	資金不足比率(※4)																																																																																																																																																																																												
	人口密度(人/km ²)	670			71.8	70.9	基準財政需要額	2,818,197	2,834,158																																																																																																																																																																																													
世帯数(世帯)	5,226					標準税収入額等	1,467,558	1,432,053																																																																																																																																																																																														
職員状況																																																																																																																																																																																																						
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	一般職員等(※6)	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	地方債現在高	4,437,228	4,249,070																																																																																																																																																																																											
	市区町村長	1	7,070	一般職員	108	312,876	2,897	うち公的資金	4,282,776	4,237,219																																																																																																																																																																																												
	副市区町村長	1	5,840	うち消防職員	-	-	-	債務負担行為額(支出予定額)	4,584	26																																																																																																																																																																																												
	教育長	1	5,410	うち技能労務職員	9	29,691	3,299	収益事業収入	-	-																																																																																																																																																																																												
	議会議長	1	3,030	教育公務員	11	28,941	2,631	土地開発基金現在高	220,638	220,604																																																																																																																																																																																												
	議会副議長	1	2,630	臨時職員	-	-	-	財政調整基金	736,435	735,184																																																																																																																																																																																												
	議会議員	8	2,450	合計	119	341,817	2,872	減債基金	125,506	115,486																																																																																																																																																																																												
				ラスバイレ指数				98.2	その他特定目的基金	1,588,452	1,585,140																																																																																																																																																																																											
	<table border="0"> <tr> <td>一般会計等の一覧</td> <td>事業会計の一覧</td> <td>公営企業(法適)の一覧</td> <td>公営企業(法非適)の一覧</td> <td>関係する一部事務組合等一覧</td> <td>地方公社・第三セクター等一覧</td> </tr> <tr> <td>項番</td> <td>会計名</td> <td>項番</td> <td>会計名</td> <td>項番</td> <td>組合等名</td> <td>項番</td> <td>団体名</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(※3)</td> </tr> <tr> <td>(1)</td> <td>一般会計</td> <td>(4)</td> <td>国民健康保険特別会計</td> <td>(6)</td> <td>水道事業会計</td> <td>(7)</td> <td>飯塚市・桂川町衛生施設組合(一般会計)</td> <td>(17)</td> <td>地域商社いいバイ桂川</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(2)</td> <td>住宅新築資金等貸付事業特別会計</td> <td>(5)</td> <td>後期高齢者医療特別会計</td> <td></td> <td></td> <td>(8)</td> <td>福岡県市町村消防団員等公務災害補償組合(一般会計)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(3)</td> <td>土地取得特別会計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(9)</td> <td>福岡県市町村職員退職手当組合(一般会計)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(10)</td> <td>福岡県市町村職員退職手当組合(基金特別会計)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(11)</td> <td>福岡県自治会館管理組合(一般会計)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(12)</td> <td>飯塚地区消防組合(一般会計)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(13)</td> <td>福岡県自治振興組合(一般会計)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(14)</td> <td>福岡県自治振興組合(公文書館事業特別会計)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(15)</td> <td>福岡県介護保険広域連合(一般会計)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(16)</td> <td>福岡県介護保険広域連合(介護保険事業特別会計)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>																一般会計等の一覧	事業会計の一覧	公営企業(法適)の一覧	公営企業(法非適)の一覧	関係する一部事務組合等一覧	地方公社・第三セクター等一覧	項番	会計名	項番	会計名	項番	組合等名	項番	団体名								(※3)	(1)	一般会計	(4)	国民健康保険特別会計	(6)	水道事業会計	(7)	飯塚市・桂川町衛生施設組合(一般会計)	(17)	地域商社いいバイ桂川							(2)	住宅新築資金等貸付事業特別会計	(5)	後期高齢者医療特別会計			(8)	福岡県市町村消防団員等公務災害補償組合(一般会計)									(3)	土地取得特別会計					(9)	福岡県市町村職員退職手当組合(一般会計)															(10)	福岡県市町村職員退職手当組合(基金特別会計)															(11)	福岡県自治会館管理組合(一般会計)															(12)	飯塚地区消防組合(一般会計)															(13)	福岡県自治振興組合(一般会計)															(14)	福岡県自治振興組合(公文書館事業特別会計)															(15)	福岡県介護保険広域連合(一般会計)															(16)	福岡県介護保険広域連合(介護保険事業特別会計)								
	一般会計等の一覧	事業会計の一覧	公営企業(法適)の一覧	公営企業(法非適)の一覧	関係する一部事務組合等一覧	地方公社・第三セクター等一覧																																																																																																																																																																																																
項番	会計名	項番	会計名	項番	組合等名	項番	団体名								(※3)																																																																																																																																																																																							
(1)	一般会計	(4)	国民健康保険特別会計	(6)	水道事業会計	(7)	飯塚市・桂川町衛生施設組合(一般会計)	(17)	地域商社いいバイ桂川																																																																																																																																																																																													
(2)	住宅新築資金等貸付事業特別会計	(5)	後期高齢者医療特別会計			(8)	福岡県市町村消防団員等公務災害補償組合(一般会計)																																																																																																																																																																																															
(3)	土地取得特別会計					(9)	福岡県市町村職員退職手当組合(一般会計)																																																																																																																																																																																															
						(10)	福岡県市町村職員退職手当組合(基金特別会計)																																																																																																																																																																																															
						(11)	福岡県自治会館管理組合(一般会計)																																																																																																																																																																																															
						(12)	飯塚地区消防組合(一般会計)																																																																																																																																																																																															
						(13)	福岡県自治振興組合(一般会計)																																																																																																																																																																																															
						(14)	福岡県自治振興組合(公文書館事業特別会計)																																																																																																																																																																																															
						(15)	福岡県介護保険広域連合(一般会計)																																																																																																																																																																																															
						(16)	福岡県介護保険広域連合(介護保険事業特別会計)																																																																																																																																																																																															

(注釈) ※1: 経常収支比率の()内の数値は、「減収補償債(特例分)」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。
 ※2: 各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。
 ※3: 地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。
 ※4: 資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。
 ※5: 産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、分類不能の産業を除いて算出。
 ※6: 個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「1人あたり給料月額(百円)」を「アスタリスク(*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている)。
 ※7: 人口については、調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

(1) 普通会計の状況(市町村)

歳入の状況(単位:千円・%)				地方税の状況(単位:千円・%)				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分
地方税	1,149,660	19.8	1,149,660	36.7	普通税	1,149,660	100.0	-
地方譲与税	55,506	1.0	55,506	1.8	法定普通税	1,149,660	100.0	-
利子割交付金	1,738	0.0	1,738	0.1	市町村民税	516,272	44.9	-
配当割交付金	3,862	0.1	3,862	0.1	個人均等割	21,872	1.9	-
株式等譲渡所得割交付金	3,540	0.1	3,540	0.1	所得割	436,663	38.0	-
分離課税所得割交付金	-	-	-	-	法人均等割	17,618	1.5	-
道府県民税所得割臨時交付金	-	-	-	-	法人税割	40,119	3.5	-
地方消費税交付金	213,539	3.7	213,539	6.8	固定資産税	487,246	42.4	-
ゴルフ場利用税交付金	19,091	0.3	19,091	0.6	うち純固定資産税	478,994	41.7	-
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	軽自動車税	41,521	3.6	-
自動車取得税交付金	21,085	0.4	21,085	0.7	市町村たばこ税	104,621	9.1	-
軽油引取税交付金	-	-	-	-	釧産税	-	-	-
地方特例交付金	6,354	0.1	6,354	0.2	特別土地保有税	-	-	-
地方交付税	1,898,271	32.7	1,647,815	52.7	法定外普通税	-	-	-
普通交付税	1,647,815	28.4	1,647,815	52.7	目的税	-	-	-
特別交付税	250,456	4.3	-	-	法定目的税	-	-	-
震災復興特別交付税	-	-	-	-	入湯税	-	-	-
(一般財源計)	3,372,646	58.2	3,122,190	99.8	事業所税	-	-	-
交通安全対策特別交付金	2,152	0.0	2,152	0.1	都市計画税	-	-	-
分担金・負担金	56,608	1.0	-	-	水利地益税等	-	-	-
使用料	123,465	2.1	3,948	0.1	法定外目的税	-	-	-
手数料	44,203	0.8	-	-	旧法による税	-	-	-
国庫支出金	823,472	14.2	-	-	合計	1,149,660	100.0	-
国有提供交付金(特別区財調交付金)	-	-	-	-				
都道府県支出金	455,330	7.9	-	-				
財産収入	30,309	0.5	1,338	0.0				
寄附金	6,523	0.1	-	-				
繰入金	3,715	0.1	-	-				
繰越金	221,112	3.8	-	-				
諸収入	79,577	1.4	1	0.0				
地方債	578,644	10.0	-	-				
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-				
うち臨時財政対策債	158,244	2.7	-	-				
歳入合計	5,797,756	100.0	3,129,629	100.0				

区分		平成30年度		平成29年度	
徴収率	現・計	99.1	95.7	98.9	94.1
(%)	年	99.0	95.5	98.9	94.3
		99.1	95.1	98.9	92.7

公営事業等への繰出		国民健康保険事業会計の状況	
合計	622,852	実質収支	34,467
上水道	-	再差引収支	4,035
工業用水道	-	加入世帯数(世帯)	2,061
交通	-	被保険者数(人)	3,282
電気	-	被保険者	93
国民健康保険	155,741	1人当り	保険税(料)収入額
その他	467,111		国庫支出金
			保険給付費
			325

(注釈)

普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

歳出の状況(単位:千円・%)					
目的別歳出の状況(単位:千円・%)					
区分	決算額(A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等	
議会費	66,457	1.2	-	66,457	
総務費	601,571	10.8	3,904	552,624	
民生費	2,221,446	39.8	11,190	1,189,748	
衛生費	454,096	8.1	11,112	398,299	
労働費	29,602	0.5	-	29,409	
農林水産業費	89,140	1.6	15,882	58,079	
商工費	16,298	0.3	-	16,297	
土木費	702,825	12.6	643,627	103,935	
消防費	285,364	5.1	47,481	238,538	
教育費	595,194	10.7	83,744	494,538	
災害復旧費	108,216	1.9	-	50,257	
公債費	416,939	7.5	-	416,296	
諸支出金	-	-	-	-	
前年度繰上充用金	-	-	-	-	
歳出合計	5,587,148	100.0	816,940	3,614,477	

性質別歳出の状況(単位:千円・%)					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	2,477,353	44.3	1,643,660	1,632,814	49.7
人件費	964,242	17.3	863,541	852,850	25.9
うち職員給	611,465	10.9	523,300	-	-
扶助費	1,096,172	19.6	363,823	363,668	11.1
公債費	416,939	7.5	416,296	416,296	12.7
元利償還金	416,270	7.5	415,627	415,627	12.6
内 うち元金	390,486	7.0	390,136	390,136	11.9
訳 うち利子	25,784	0.5	25,491	25,491	0.8
一時借入金利子	669	0.0	669	669	0.0
その他の経費	2,184,639	39.1	1,803,673	1,582,163	48.1
物件費	851,152	15.2	649,696	582,378	17.7
維持補修費	54,880	1.0	32,507	32,507	1.0
補助費等	637,457	11.4	602,402	495,964	15.1
うち一部事務組合負担金	433,453	7.8	433,253	364,175	11.1
繰出金	622,852	11.1	505,095	471,314	14.3
積立金	18,298	0.3	13,973	-	-
投資・出資金・貸付金	-	-	-	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	925,156	16.6	167,144	-	-
うち人件費	36,116	0.6	36,116	-	-
普通建設事業費	816,940	14.6	116,887	-	-
うち補助	638,686	11.4	8,622	-	-
うち単独	175,730	3.1	108,241	-	-
災害復旧事業費	108,216	1.9	50,257	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	5,587,148	100.0	3,614,477	-	-

(3) 市町村財政比較分析表(普通会計決算)

平成30年度

福岡県桂川町

人口	13,535人 (H31.1.1現在)	実質赤字比率	- %
うち日本人	13,430人 (H31.1.1現在)	連結実質赤字比率	- %
面積	20.14km ²	実質公債費比率	3.9 %
歳入総額	5,797,766千円	将来負担比率	- %
歳出総額	5,587,148千円		
実質収支	202,097千円	市町村類型	H26 Ⅲ-2 H27 Ⅲ-2 H28 Ⅲ-2
標準財政規模	3,273,617千円	(年度毎)	H29 Ⅲ-2 H30 Ⅲ-2
地方債現在高	4,437,228千円		

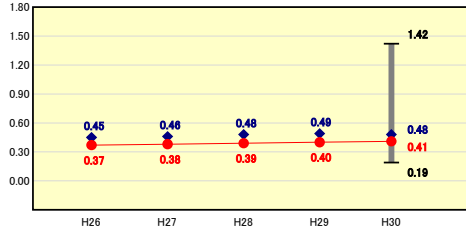


※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※平成31年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。
 ※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。
 ※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。
 ※人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

財政力

財政力指数 [0.41]

類似団体内順位 26/54 全国平均 0.51 福岡県平均 0.54

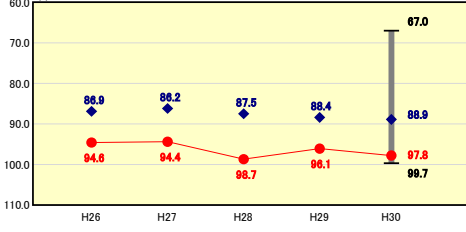


財政力指数の分析欄
 少子高齢化(町高齢化率33.4%>全国平均28.1%(平成30年9月時点))や若年層の町外流出等による人口減少に加え、中核となる産業がなく、基幹産業である農業についても概して小規模経営であること等により、財政基盤が弱く、類似団体平均を下回っている。
 今後も、町税等の滞納対策や事務・事業の点検・改善の取組みを継続するとともに、ふるさと納税や「桂川町まちひとしごと創生総合戦略」(平成28年3月策定)の取組みを通じ、将来に亘り持続可能な財政基盤の強化に努める。

財政構造の弾力性

経常収支比率 [97.8%]

類似団体内順位 49/54 全国平均 93.0 福岡県平均 94.3

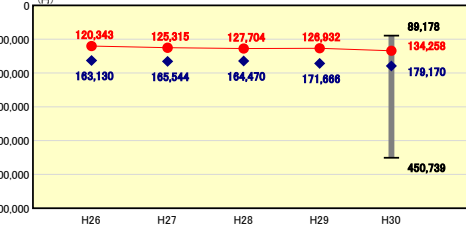


経常収支比率の分析欄
 前年度から1.7ポイント数値が悪化した要因としては、歳入においては微増に留まったものの、歳入における評価替及び地価下落等による固定資産税の減や、包括算定経費の減及び基準財政収入額による普通交付税の減、さらに臨時財政対策債の減等が挙げられる。
 なお、公債費について主に地方道路等整備事業に係る元利償還金の減に伴い、前年度比▲14,564千円となったものの、今後町営住宅建設事業や桂川駅周辺地区都市再生整備事業に係る地方債の本格的な償還時期を迎えることから、増加傾向となることが見込まれる。
 このような厳しい財政状況を踏まえ、引き続き町直営で実施している各種事業の民営化の検討や、扶助費における資格審査の適正化等により経常経費の削減に努める。

人件費・物件費等の状況

人口1人当たり人件費・物件費等決算額 [134,258円]

類似団体内順位 13/54 全国平均 132,793 福岡県平均 134,691

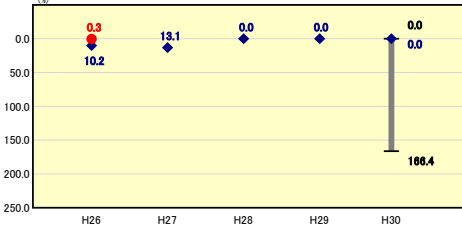


人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄
 類似団体平均を下回っているのは、主に人件費を要因としている。これは「桂川町第4次行政改革大綱(平成17~21年度)」の期間内に勤奨退職職員の増や、退職者の不補充等により、平成16年度正規職員142人に対し、平成21年度122人と14.1%の削減を達成したことによる。平成30年度は再任用職員及び任期付職員(少数指導教員)を除き125人と同水準を保持している。
 今後も、民間においても実施可能な部分は委託化等を検討し、コストの低減を図っていく方針である。

将来負担の状況

将来負担比率 [-%]

類似団体内順位 1/54 全国平均 28.9 福岡県平均 73.4

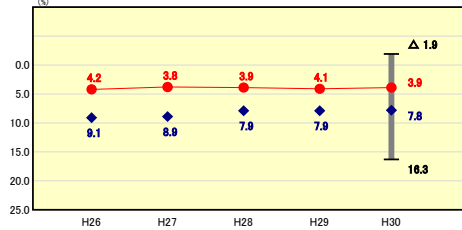


将来負担比率の分析欄
 地方債残高について、町営住宅建設事業をはじめとする大型事業に係る地方債発行等により前年度より増加となったものの、従来から地方債発行に当たり普通交付税措置のあるメニューを選択してきたこと等により、地方債残高に係る実質的な町負担を軽減してきたことに加え、財政調整基金をはじめとする充当可能基金について前年度から増加となったため、引き続き将来負担比率が発生しない状況となった。
 今後も地方債残高については増加傾向が続くと見込まれるが、後世への負担を軽減するよう「桂川町第5次総合計画」(平成23年3月策定)に沿って、長期的な視野に立った計画的な財政運営を進める。

公債費負担の状況

実質公債費比率 [3.9%]

類似団体内順位 7/54 全国平均 6.1 福岡県平均 8.6

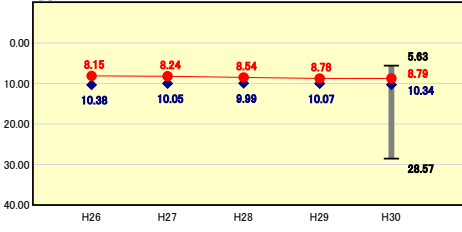


実質公債費比率の分析欄
 平成19年度から3年間実施した繰上償還による地方債現在高の大幅減や、近年の投資的経費に係る地方債発行の抑制等により、元利償還金の減少傾向が続いたため、類似団体平均を下回る水準を維持している。
 今後は桂川駅周辺地区都市再生整備事業や、町営住宅建設事業等の大型事業により公債費の増加が見込まれるが、従来の方針どおり、事業の実施にあたっては緊急度・住民ニーズを的確に把握し、世代間負担の公平化に留意しつつ、起債に大きく依存することのない財政運営を図り、元利償還金の増加抑制に努める。

定員管理の状況

人口1,000人当たり職員数 [8.79人]

類似団体内順位 17/54 全国平均 7.95 福岡県平均 8.06

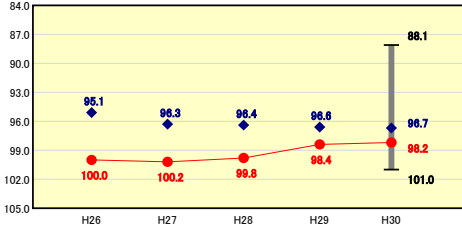


人口1,000人当たり職員数の分析欄
 類似団体平均を下回っているのは、「桂川町第4次行政改革大綱(平成17~21年度)」の期間内に勤奨退職職員の増や、退職者の不補充等により、平成16年度正規職員総数142人に対し、平成21年度122人と14.1%の削減を達成したことが大きな要因である。平成30年度は再任用職員及び任期付職員(少数指導教員)を除き125人と同水準を維持している。
 今後も、職員の新規採用については原則退職者補充とし、適切な定員管理に努める。

給与水準 (国との比較)

ラスパイレス指数 [98.2]

類似団体内順位 41/54 全国市平均 98.9 全国町村平均 96.3



ラスパイレス指数の分析欄
 平成27年度については、給与体系の総合的見直しが国より3ヶ月遅れ、平成27年7月実施となり、総合的見直し以前の給与表の採用や現給補償発生したことにより、わずかながらラスパイレス指数が100を上回った。しかし、平成28年度以降は人事院勧告に対し、国家公務員給与に準拠した調整を行っていることにより、類似団体平均をやや上回っているものの、100を下回る水準を維持している。今後も国公準拠を旨とし、給与適正化に努める。

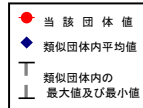
(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成30年度

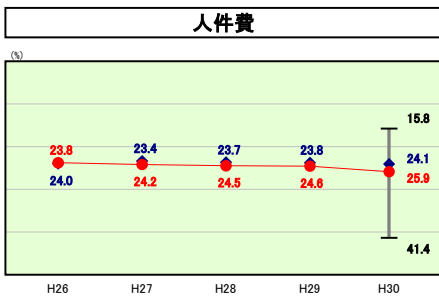
福岡県桂川町

経常収支比率の分析

人口	13,535	人(H31.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	13,430	人(H31.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	20.14	km ²	実質公債費比率	3.9	%
歳入総額	5,797,756	千円	将来負担比率	-	%
歳出総額	5,587,148	千円			
実質収支	202,097	千円	市町村類型	H26 Ⅲ-2 H27 Ⅲ-2 H28 Ⅲ-2	
標準財政規模	3,273,617	千円	(年度毎)	H29 Ⅲ-2 H30 Ⅲ-2	
地方債現在高	4,437,228	千円			



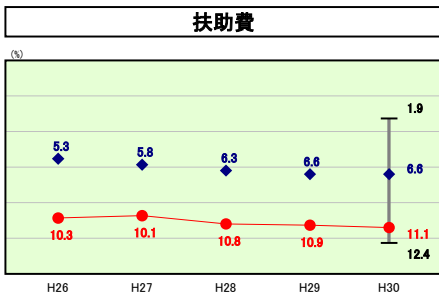
※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



類似団体内順位 40/54 全国平均 25.6 福岡県平均 25.4

人件費の分析欄

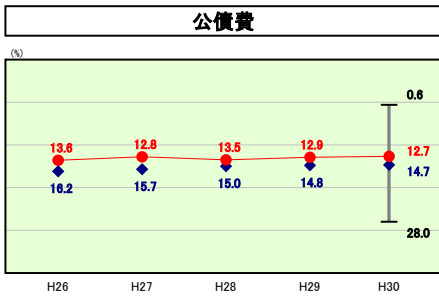
平成17年からの5年間に「桂川町第4次行政改革大綱」に沿って実施した退職者不補充等による正規職員総数の削減効果等の継続のため、類似団体平均と同水準を維持してきたが、小中学校における少人数学級指導にかかわる任期付教員や、再任用職員の増等により、平成27年度以降は類似団体平均を上回る状況が続いている。
 今後、直営で実施している各種事業について、民間での実施可能性の検討等に取り組み、人件費の縮減に努める。



類似団体内順位 49/54 全国平均 12.6 福岡県平均 14.1

扶助費の分析欄

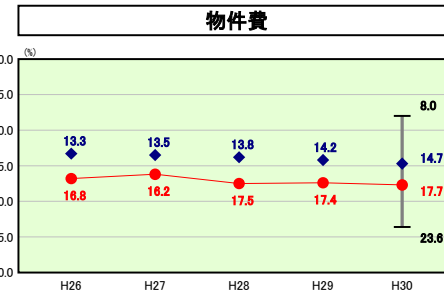
平成18年度の障害者自立支援制度開始による障害者サービス利用の増加等に伴い障がい者福祉費が膨らんでいることや、乳幼児医療に係る独自助成の拡大、高齢化率(平成30年9月現在:33.4%)上昇の影響等により、類似団体平均を大きく上回っている。
 少子高齢化する進む本町において、高齢者等に対する支援や、子育て環境の充実が重要な課題であるが、各種手当の見直しや資格審査の適正化等を行い、財政を圧迫する上昇傾向に、可能な限り歯止めをかけるよう努める。



類似団体内順位 21/54 全国平均 16.6 福岡県平均 18.6

公債費の分析欄

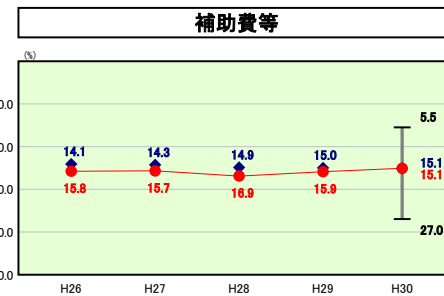
平成19年度～21年度の公的資金補償金免除繰上償還及び繰越償還上償還や、近年の投資的事業の抑制等により、地方債元利償還金の減少傾向が続いたため、類似団体平均を下回る水準を維持している。
 今後本格化する桂川駅周辺地区都市再生整備事業や、町営住宅建替事業等の大型事業による公債費の増加が懸念されるが、従来の方針を踏襲し、事業の実施に当たっては、緊急度・住民ニーズの把握や国・県支出金等の財源確保を図り、起債に大きく依存することのない財政運営に努める。



類似団体内順位 41/54 全国平均 14.7 福岡県平均 13.8

物件費の分析欄

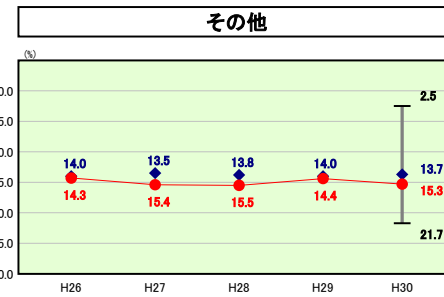
類似団体平均に比べ高止まりしているのは、直営で実施している各種事業に係る正規職員の削減に対し、主に臨時職員でマンパワー不足を補っていることに起因する。
 これまで実施してきた庁内組織の再編や、住民及び時代のニーズを捉えた必要経費の取捨選択等の取組みを継続するとともに、今後、行政コスト削減に資する指定管理者制度導入の検討等を進める。



類似団体内順位 29/54 全国平均 10.2 福岡県平均 9.8

補助費等の分析欄

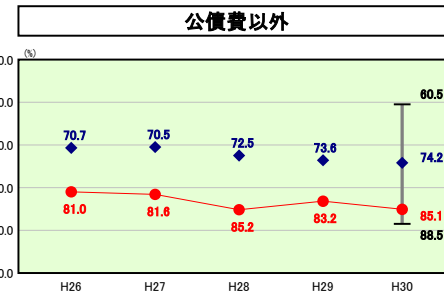
平成30年度においては、一部事務組合で行っているごみ処理等施設の施設更新費や、常備消防に係る負担金が前年度から大幅に減となったため、類似団体平均と同値となった。ごみ処理等施設については、平成31年4月1日に近隣市町とふくおか県環境広域施設組合を発足し、施設の広域化・効率化が図られるため、今後の動向に注視する。
 各種団体への補助金等については、団体の自立的・自主的運営の促進を求めるとともに、時代の要請に合わないものや所期の目的を達成したものの廃止・圧縮等の抜本的見直しを図り、経費縮減に努める。



類似団体内順位 33/54 全国平均 13.3 福岡県平均 12.6

その他の分析欄

前年度と比較して国民健康保険事業、介護保険事業に対する繰出金が減少傾向となったものの、後期高齢者医療事業に対する繰出金が増加傾向となり、類似団体平均を上回ることとなった。
 今後介護予防の推進や、特に国民健康保険事業については独立採算の原則に立ち返った保険料の適正化等による財務体質の健全化を図り、税金を主な財源とする一般会計の負担減に努める。



類似団体内順位 52/54 全国平均 76.4 福岡県平均 75.7

公債費以外の分析欄

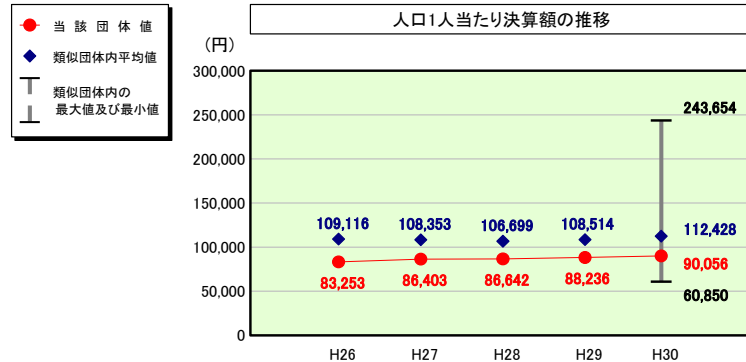
公債費以外の経常収支比率が高い要因は、扶助費負担によるところが最も大きく、少子高齢化する進む本町においては今後、更なる増大が予想される。平成28年度策定の健康増進計画等に基づき、保険・医療・福祉サービスの政策連携を図り、将来の財政負担の軽減に努める。
 また、高止まりしている物件費負担については、直営で実施している各種事業の民営化等の行政コスト削減の検討を進め、長期的な視野に立った行財政運営に努める。

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成30年度

福岡県桂川町

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



人件費及び人件費に準ずる費用

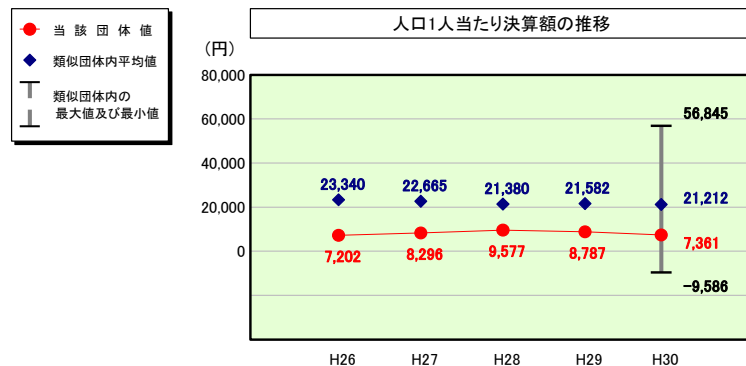
	当該団体決算額		人口1人当たり決算額	
	(千円)	当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
人件費	964,242	71,241	89,955	▲ 20.8
賃金 (物件費)	144,769	10,696	10,661	0.3
一部事務組合負担金 (補助費等)	147,000	10,861	13,679	▲ 20.6
公営企業 (法適) 等に対する繰出し (補助費等)	-	-	972	-
公営企業 (法適) 等に対する繰出し (投資及び出資金・貸付金)	-	-	32	-
公営企業 (法非適) 等に対する繰出し (繰出金)	15,983	1,181	4,100	▲ 71.2
事業費支弁に係る職員の人件費 (投資的経費)	36,116	2,668	1,979	34.8
▲退職金	▲ 89,207	▲ 6,591	▲ 8,950	▲ 26.4
合計	1,218,903	90,056	112,428	▲ 19.9

参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	8.79	10.34	▲ 1.55
ラスパイレス指数	98.2	96.7	1.5

(注) 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。

公債費及び公債費に準ずる費用の分析

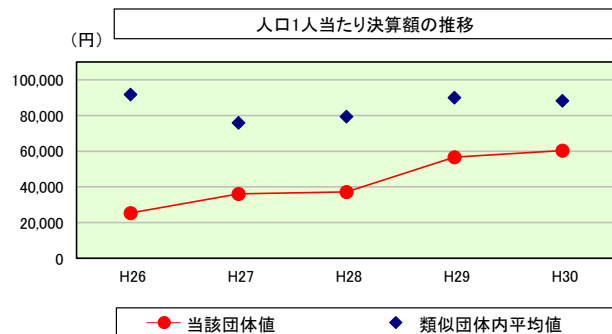


公債費及び公債費に準ずる費用 (実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額		人口1人当たり決算額	
	(千円)	当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	416,270	30,755	52,443	▲ 41.4
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	-	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	-	-	-	-
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に充てたと認められる繰入金	-	-	14,640	-
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる補助金又は負担金	-	-	3,738	-
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	9	1	1,128	▲ 99.9
一時借入金利子 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	669	49	7	600.0
▲特定財源の額	▲ 643	▲ 48	▲ 2,426	▲ 98.0
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲ 316,677	▲ 23,397	▲ 48,318	▲ 51.6
合計	99,628	7,361	21,212	▲ 65.3

※平成31年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体 (円)	増減率 (%) (A)	類似団体平均 (円)	増減率 (%) (B)	
H26	355,066	25,375	▲ 50.3	91,837	11.0	▲ 61.3
うち単独分	194,470	13,898	▲ 47.5	54,439	21.7	▲ 69.2
H27	503,511	36,076	▲ 42.2	75,972	▲ 17.3	59.5
うち単独分	251,648	18,030	29.7	40,712	▲ 25.2	54.9
H28	514,515	37,243	3.2	79,466	4.6	▲ 1.4
うち単独分	187,444	13,568	▲ 24.7	44,645	9.7	▲ 34.4
H29	775,068	56,694	52.2	90,072	13.3	38.9
うち単独分	136,558	9,989	▲ 26.4	46,083	3.2	▲ 29.6
H30	816,940	60,358	6.5	88,328	▲ 1.9	8.4
うち単独分	175,730	12,983	30.0	49,013	6.4	23.6
過去5年間平均	593,020	43,149	10.8	85,135	1.9	8.9
うち単独分	189,170	13,694	▲ 7.8	46,978	3.2	▲ 11.0

(5) 市町村性質別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

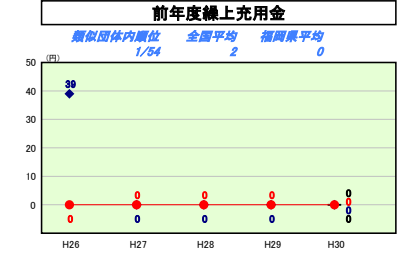
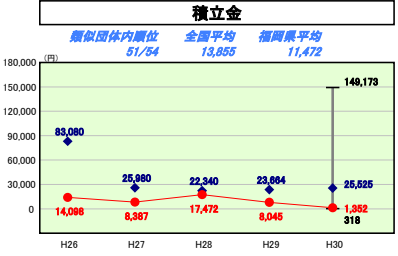
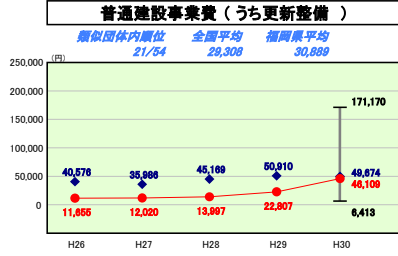
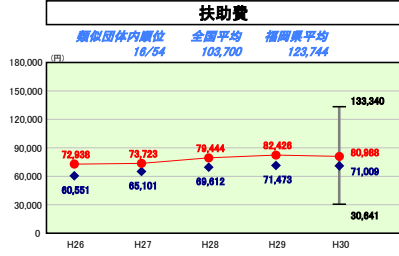
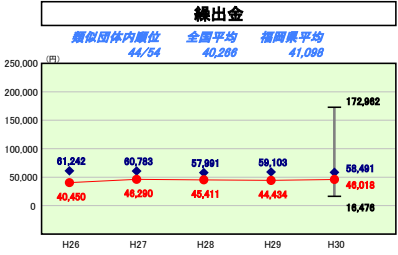
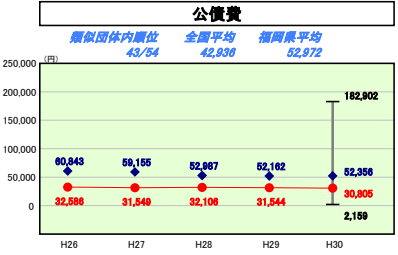
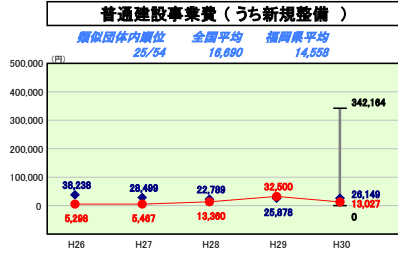
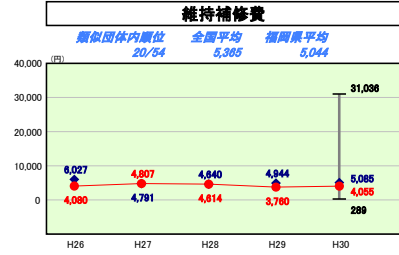
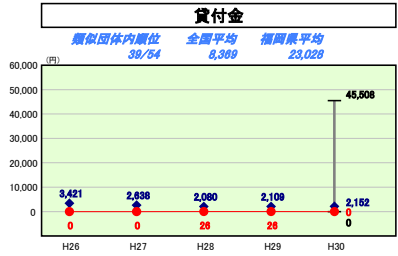
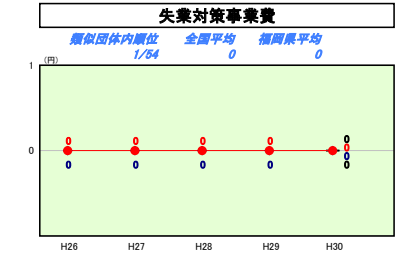
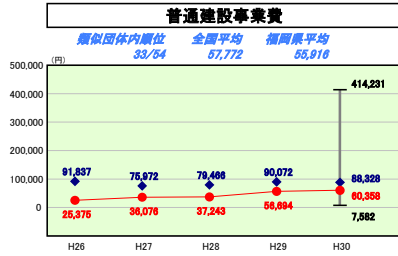
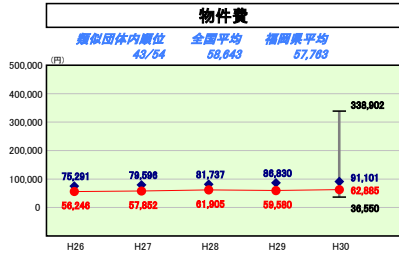
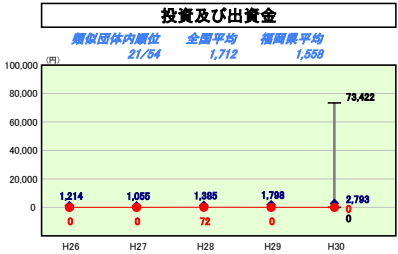
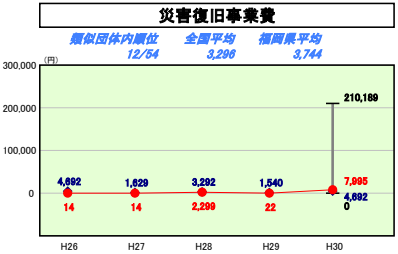
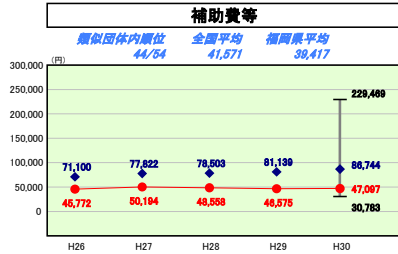
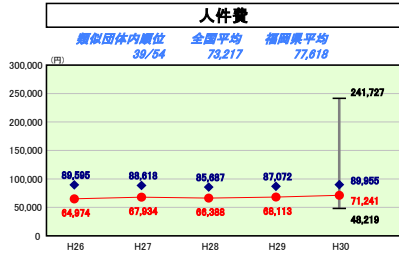
平成30年度

福岡県桂川町

人口	13,535 人(981.1.1現在)	実収赤字比率	- %
うち日本人	13,430 人(981.1.1現在)	連結実収赤字比率	- %
面積	20.14 千㎡	実収公債費比率	3.9 %
歳入総額	5,797,756 千円	将来負担比率	- %
歳出総額	5,587,148 千円	市町村類型	H26 Ⅲ-2 H27 Ⅲ-2 H28 Ⅲ-2
実収収支	202,007 千円	(年度毎)	H29 Ⅲ-2 H30 Ⅲ-2
標準財政規模	3,273,617 千円		
地方債現在高	4,437,228 千円		



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



性質別歳出の分析

歳出決算総額は、住民一人当たり412,799円となっており、それぞれの費目において、押並べて類似団体平均に比べて低コストな状況となっている。個別の項目で見ると、人件費については「桂川町第4次行政改革大綱」による職員削減効果、公債費については平成19年度～21年度の地方債繰上償還効果、普通建設事業費については近年の投資的経費の抑制効果によるものであるが、本町は財政基盤が弱く、財政力指数では0.41前後と一般財源に乏しいことから、町独自施策を大きく展開することが困難であることが主要因であると思える。このことは、積立金において類似団体平均を大きく下回っていることから推察される。また、義務的経費である扶助費については少子高齢化等の影響により類似団体平均を上回っており、他の経費を抑制してでも多くの財源を充当せざるを得ないことも、この状況を助長する原因であると考えられる。さらに新規整備に係る普通建設事業費についても、桂川町周辺地区都市再生整備事業や町営住宅建設事業により、増加傾向となることが見込まれる。財政力の脆弱な本町は、国の地方財政施策の動向に大きく左右されるため、財政基盤の安定した自立的な行政運営を可能とすべく、これまでも実施してきた事業の取捨選択等の徹底に加え、ふるさと納税や地方創生施策を加速し、将来に亘り活力ある持続可能な地域づくりや自主財源の創出・拡大に努める。

(6) 市町村目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

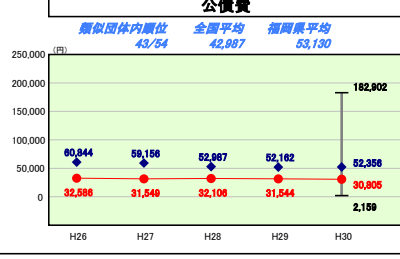
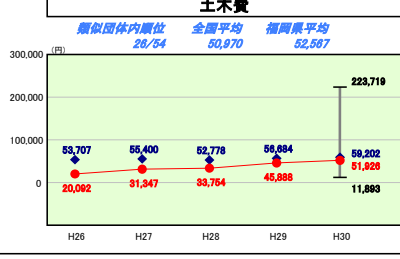
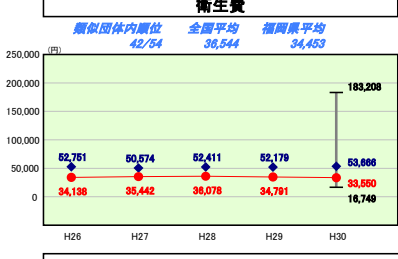
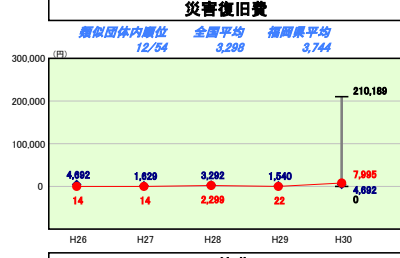
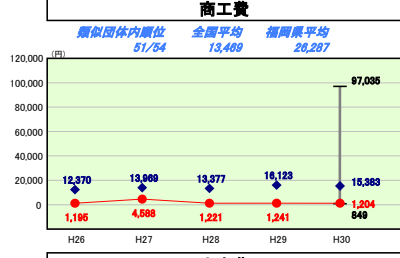
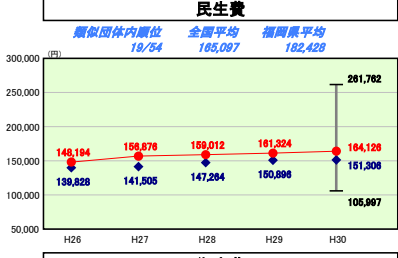
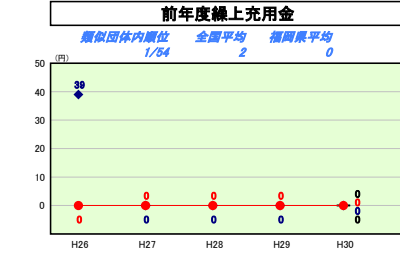
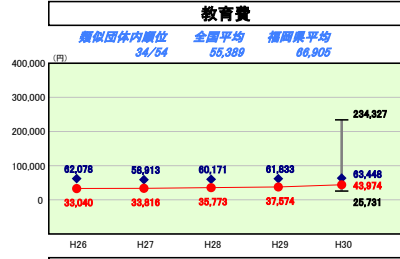
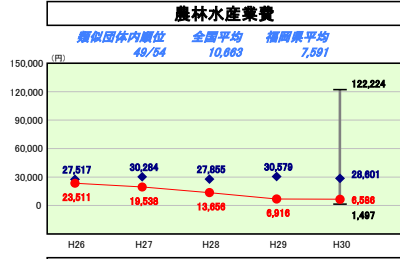
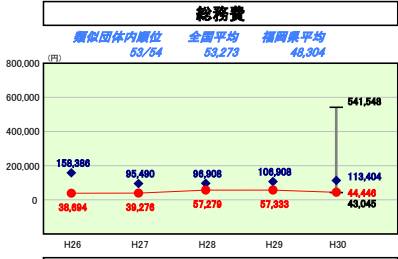
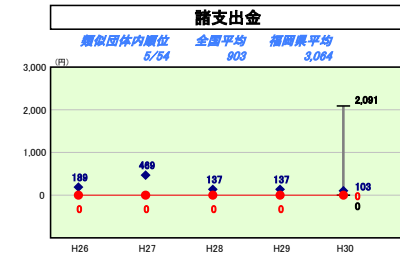
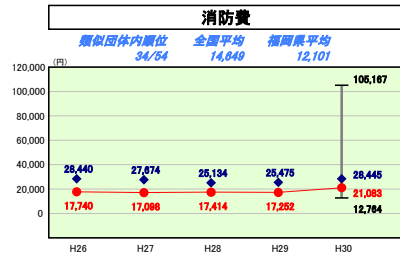
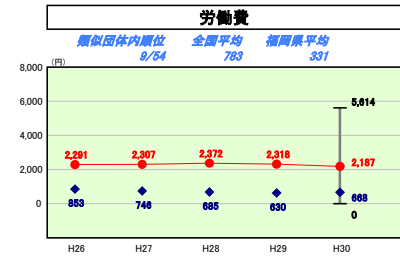
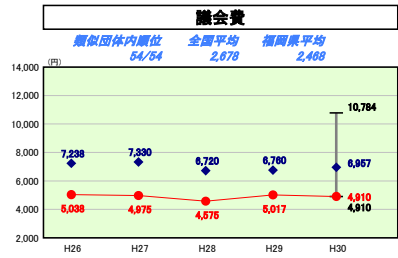
平成30年度

福岡県桂川町

人口	13,535人(981.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	13,430人(981.1.1現在)	通算実質赤字比率	-%
世帯	20,144世帯	実質公債費比率	3.9%
歳入総額	5,797,756千円	将来負担比率	-%
歳出総額	5,587,148千円	市町村類型	H26 Ⅲ-2 H27 Ⅲ-2 H28 Ⅲ-2
実質収支	202,007千円	(年度毎)	H29 Ⅲ-2 H30 Ⅲ-2
標準財政規模	3,273,617千円		
地方債現在高	4,437,228千円		

- 当該団体値
- ◆ 類似団体内平均値
- ┌ 類似団体内の
- └ 最大値及び最小値

※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



目的別歳出の分析

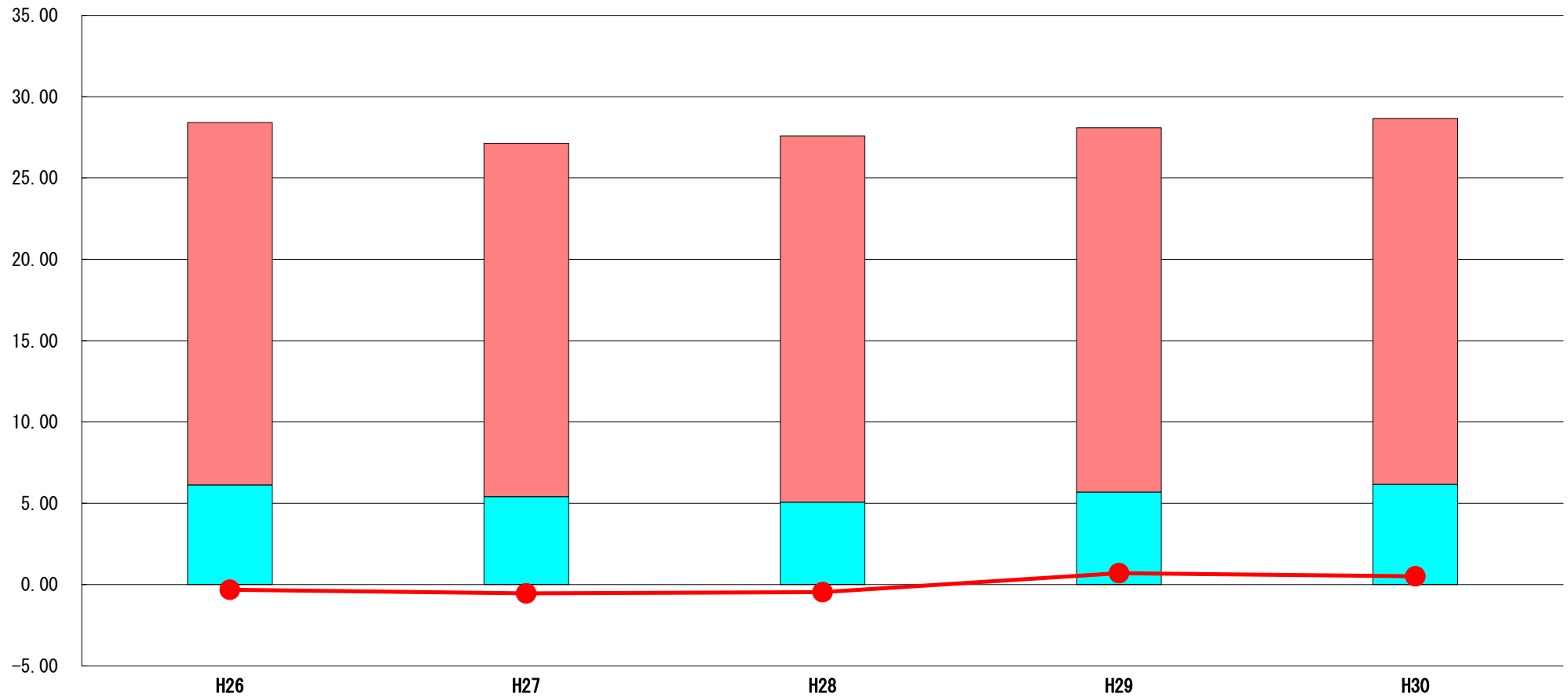
議会費において、類似団体の中でも低コストとなっているのは、いわゆる政務調査費を公費負担していないことや、議員提案により平成16年度から平成26年度間に議員定数を従前の18人から10人に削減したことにより、人件費が大幅に縮減しているためである。また、総務費においても類似団体平均を大きく下回っているが、これは「桂川町第4次行政改革大綱」による職員削減について、総務・企画等の内部管理部門を中心に行ったことによる人件費の削減効果が大いと思える。一方、労働費においては、旧産地域特有の就労対策関係費により、類似団体平均を大きく上回っている。ただし、性質的歳出と同様、それぞれの費目で押さえて類似団体平均に比して低コストな状況となっているのは、本町の歳入構造や、社会保障関係経費の代表的費目である民生費の増加圧力の他費目への波及によるもの-に起因していると考えられる。今後、財政構造の改善のため、事務・事業の総点検等の歳出効率化はもちろん、地域の新たな雇用拡大や既存産業の活性化、地域資源を活かした産業開発等の歳入増加に資する施策の展開を図り、行財政基盤の安定化に努める。

(7) 実質収支比率等に係る経年分析（市町村）




平成30年度

福岡県桂川町

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

区分	年度	H26	H27	H28	H29	H30
 財政調整基金残高		22.28	21.73	22.52	22.40	22.50
 実質収支額		6.13	5.41	5.07	5.69	6.17
 実質単年度収支		▲ 0.32	▲ 0.54	▲ 0.46	0.70	0.51

分析欄

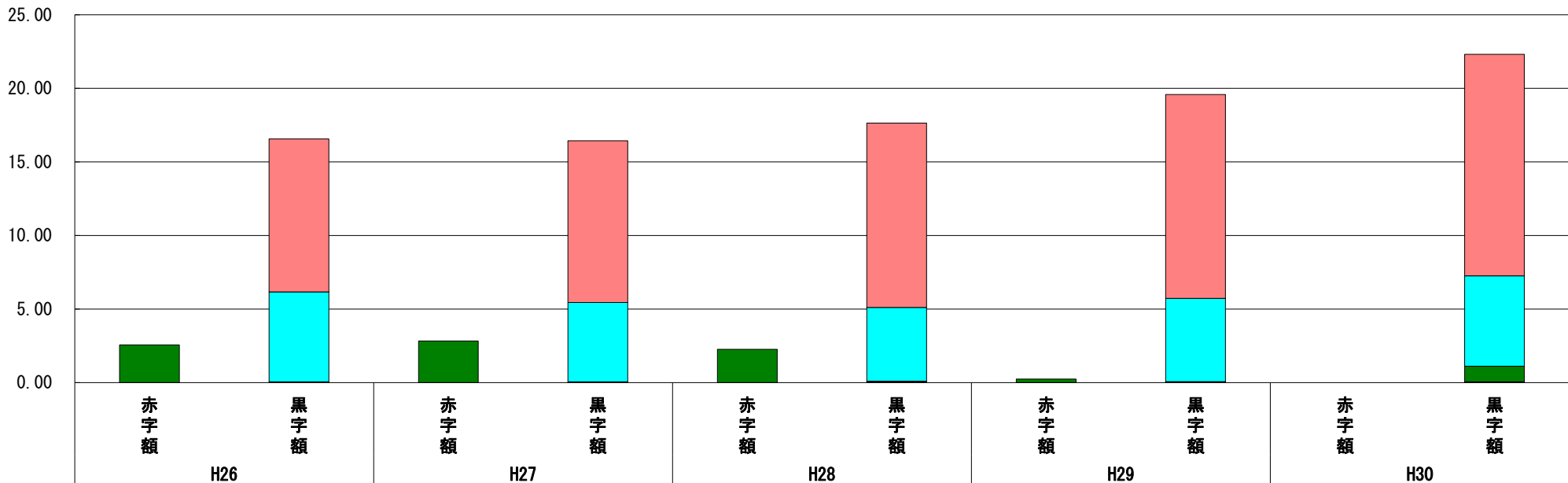
財政調整基金残高は、平成26年度の約7億3千万円から平成30年度は約7億4千万円に増加している。また、本町の実質収支比率は、6.17%となっており、近年では剰余金額が増加傾向にある。今後市町村にとって望ましい3~5%の水準を目標とし、適切な財政運営に努める。単年度収支については、前年度同様黒字となったものの、今後の財政運営には引き続き注意を要すると考えている。
 今後も地方税収の大幅な伸びは期待できないため、総合計画等の各種計画に則り、長期的な視野に立った行財政運営を図り、より一層の財政健全化に努める。

(8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

平成30年度

福岡県桂川町

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

会計	年度	H26	H27	H28	H29	H30
水道事業会計		10.39	10.99	12.53	13.85	15.05
一般会計		6.11	5.39	5.01	5.66	6.15
国民健康保険特別会計		▲ 2.56	▲ 2.83	▲ 2.26	▲ 0.24	1.05
後期高齢者医療特別会計		0.05	0.05	0.05	0.05	0.05
住宅新築資金等貸付事業特別会計		0.01	0.01	0.05	0.02	0.01
土地取得特別会計		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		-	-	-	-	-

分析欄

国民健康保険特別会計において、加入者の高齢化による保険税収入の減や医療費の増大等により、平成25年度に国保会計保険給付費支払い準備基金が枯渇して赤字決算となり、引き続き歳入不足が見込まれたことから、平成27年4月1日から保険税率の改定（引き上げ）を実施した。その結果、平成28年度及び平成29年度においては赤字決算となったものの、平成30年度には黒字決算に転じ、事業運営について一定の改善を図ることができた。今後も、平成30年度から実施されている国民健康保険事業の運営単位の県域化や、消費増税に伴う公費による財政支援の拡充等を踏まえ、また会計毎独立採算主義に則り一般会計からの法定外繰入を回避するよう、特定健康診査及び特定保健指導の推進や適正受診の啓発等の医療費適正化対策の更なる強化を図り、健全な事業運営に努める。

なお、一般会計をはじめとするその他の会計においては黒字を維持しており、連結ベースでも問題のない数値を示している。

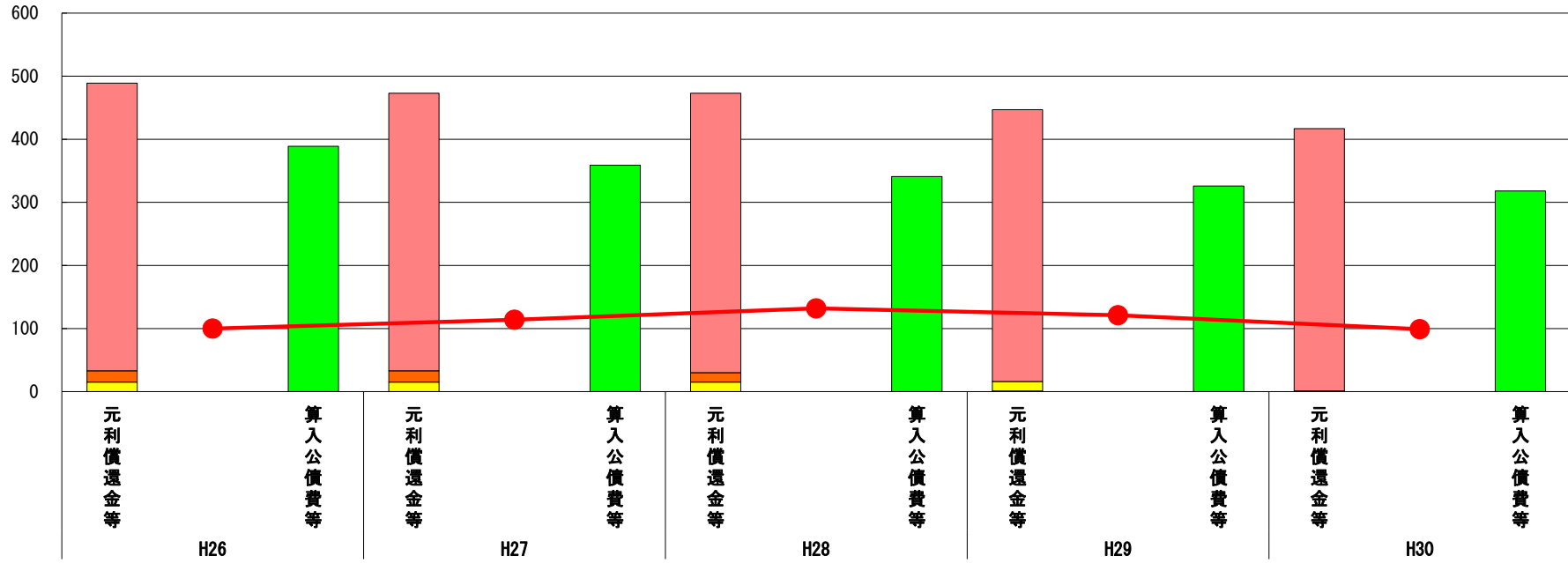
※平成31年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(9) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成30年度

福岡県桂川町

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H26	H27	H28	H29	H30
元利償還金等 (A)	元利償還金		456	440	443	431	416
	減債基金積立不足算定額※2		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		-	-	-	-	-
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		18	18	15	-	-
	債務負担行為に基づく支出額		15	15	15	15	0
	一時借入金の利息		0	0	0	1	1
算入公債費等 (B)	算入公債費等		389	359	341	326	318
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		100	114	132	121	99

分析欄

元利償還金等が減少したが、これは「元利償還金」において地方道路等整備事業に係る元利償還金の減少が主な要因である。一方、算入公債費等についても、比較的発行額が多額で、普通交付税基準財政需要額算入率の高い地方債メニューが縮小されているため、減少が続いている。
この結果、前年度同様「実質公債費率の分子」が減少した。今後、町営住宅建替事業等大型事業が控えており、令和2年度からその償還が本格化する見込みであるため、やむを得ず地方債を発行する場合は、普通交付税措置の高いメニューを選択するという従来からの方針を踏襲し、実質公債費の増加抑制に努める。

※1 平成31年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考)

※2 減債基金積立状況等		年度	H25末	H26末	H27末	H28末	H29末
減債基金積立状況等	減債基金残高(注)		-	-	-	-	-
	減債基金積立相当額		-	-	-	-	-

分析欄

該当なし

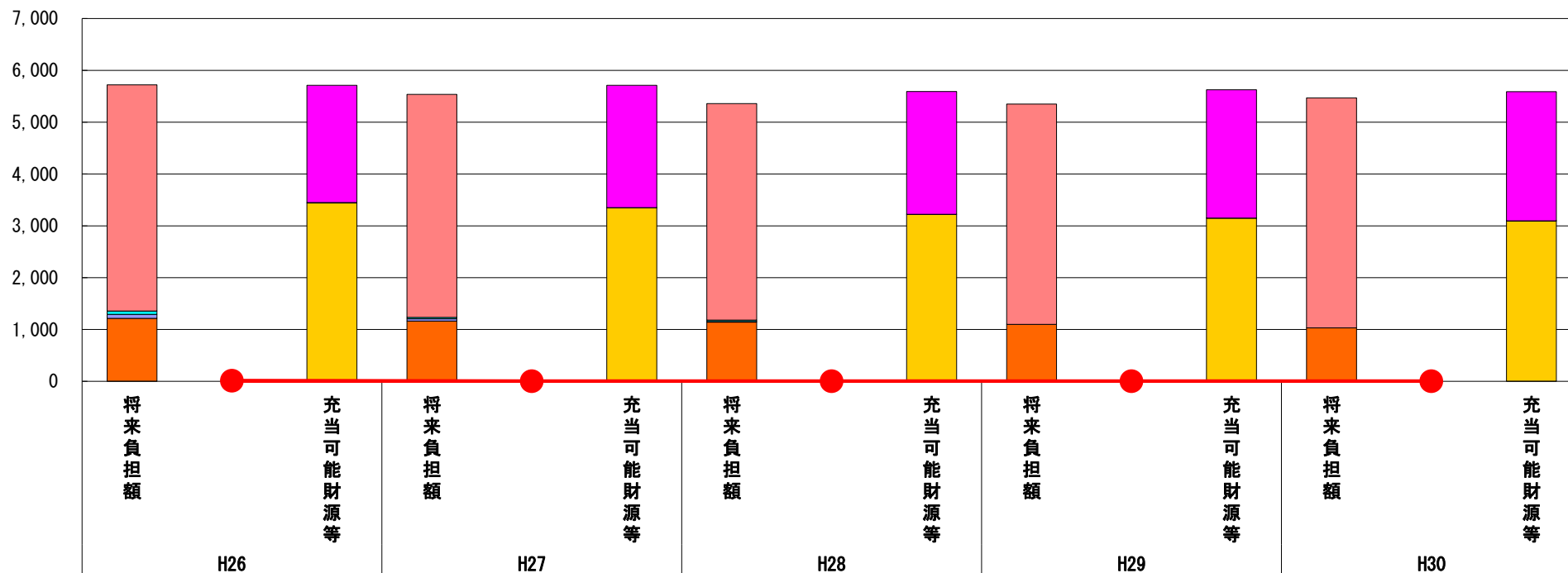
(注) 減債基金残高のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還の財源として積み立てた額に係るもののみを記入。
減債基金積立金の年度を超えた一般会計又は特別会計への貸付額は控除して記入。

(10) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

平成30年度

福岡県桂川町

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H26	H27	H28	H29	H30
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		4,365	4,305	4,177	4,249	4,437
	債務負担行為に基づく支出予定額		62	25	25	-	-
	公営企業債等繰入見込額		-	-	-	-	-
	組合等負担等見込額		77	44	15	-	-
	退職手当負担見込額		1,216	1,163	1,140	1,099	1,031
	設立法人等の負債額等負担見込額		-	-	-	-	-
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
	充当可能基金		2,262	2,361	2,370	2,477	2,491
	充当可能特定歳入		8	3	1	1	1
	基準財政需要額算入見込額		3,441	3,347	3,220	3,148	3,097
(A) - (B)	将来負担比率の分子		10	▲ 173	▲ 235	▲ 278	▲ 121

分析欄

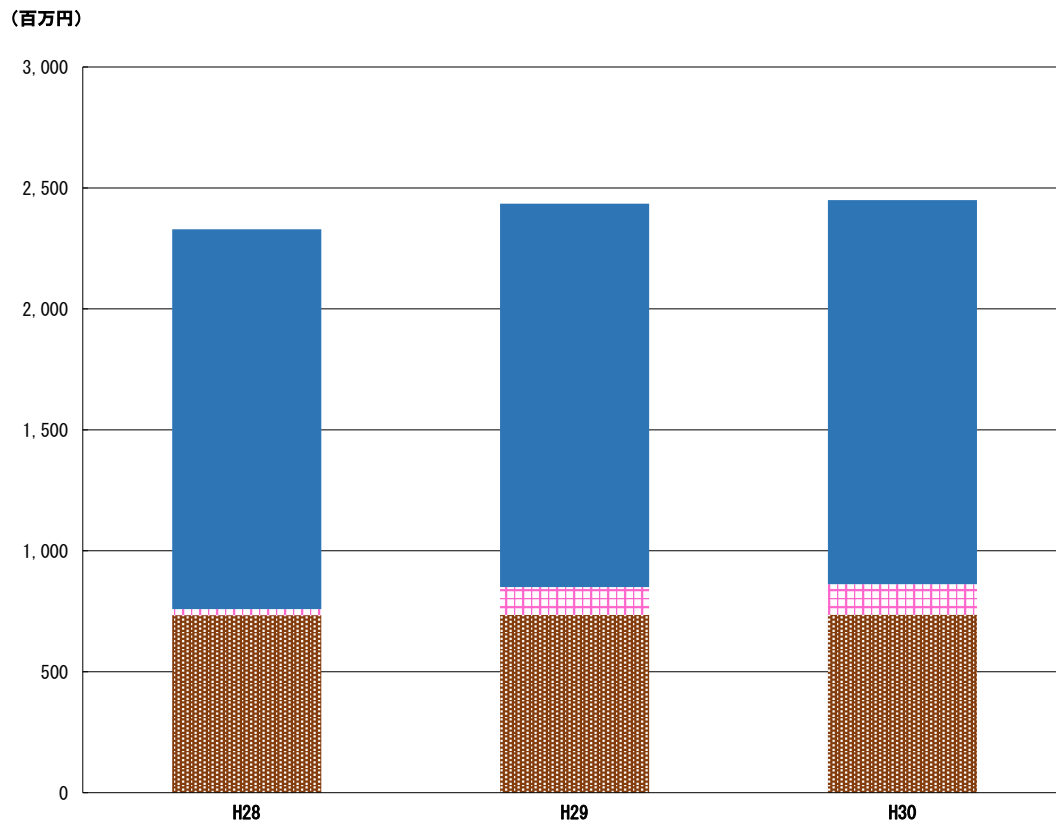
将来負担額については、職員の給与改定や年齢構成の変動による「退職手当負担見込額」の減について減少傾向が続いているものの、「一般会計等に係る地方債の現在高」において、桂川駅周辺地区都市再生整備事業、町営住宅建替事業、消防団瀬戸班格納庫建設等緊急防災・減災事業等に係る地方債発行額が償還額を上回った結果、前年度より約120百万円の増加となった。

一方、充当可能財源等については、「基準財政需要額算入見込額」において、普通交付税基準財政需要額算入率の高い地方債メニューが縮小されているため減少したものの、「充当可能基金」において、歳出抑制による執行残を今後増加する見込みである地方債の償還に備えて、減債基金に積み増し等を行った結果、全体としては前年度より微減となった。

この結果、平成30年度は「将来負担比率の分子」がゼロを下回り、将来負担比率が発生しない結果となったものの、前年度と比較すると将来負担額と充当可能財源の差額は減少している。今後も、桂川駅周辺地区都市再生整備事業や町営住宅建替事業等大型事業に係る地方債の発行により、「一般会計等に係る地方債現在高」が増加する見込みであるが、財政運営に当たり、他の行政経費とのバランスに留意しつつ、将来負担額の増加抑制に努める。

※平成31年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(11) 基金残高（東日本大震災分を含む）に係る経年分析（市町村）



(百万円)

区分	年度	H28	H29	H30
財政調整基金		734	735	736
減債基金		25	115	126
その他特定目的基金		1,570	1,585	1,588
鉦害復旧かんがい排水施設維持管理基金		1,098	1,098	1,098
公共事業整備基金		415	429	432
桂ヶ丘汚水処理施設管理基金		21	21	21
消防ポンプ自動車購入及び防災整備基金		10	12	14
ふるさと・水と土保全基金		10	10	10
基金残高合計		2,329	2,436	2,450

平成30年度

福岡県桂川町

基金全体

(増減理由)

- ・ 財政調整基金：1,251千円
 - ・ 減債基金：10,020千円
 - ・ その他特定目的基金：3,312千円
- ※詳細については下記のとおり。

(今後の方針)

近年の厳しい財政運営状況に鑑み、各基金別及び基金全体において具体的な目標積立額については設定せず、歳出抑制に伴う執行残等について積立を行っていく見込みである。また、基金を原資とした債権運用など資産活用による歳入の確保を行っていく。

財政調整基金

(増減理由)

- ・ 預金利子積立 1,251千円

(今後の方針)

近年の厳しい財政運営状況に鑑み、具体的な目標積立額については設定せず、歳出抑制に伴う執行残等について積立を行っていく見込みである。

減債基金

(増減理由)

- ・ 平成30年度決算における一般会計歳入剰余金の積立 10,000千円
- ・ 預金利子積立 20千円

(今後の方針)

近年の厳しい財政運営状況に鑑み、具体的な目標積立額については設定せず、歳出抑制に伴う執行残等について積立を行っていく見込みである。
なお、令和2年度以降桂川駅周辺地区都市再生整備事業及び町営住宅建替事業等に係る起債の償還が本格化し、財政運営を圧迫する要因となる見込みであるため、取崩しもやむを得ない状況を迎えるものと見込んでいる。

その他特定目的基金

(基金の用途)

- ・ 公共事業整備基金：公共事業整備の充実
- ・ 地域振興基金：地域における福祉活動の促進、快適な生活環境の形成等（平成30年度で基金廃止）
- ・ 泉ヶ丘団地汚水処理施設管理基金：県営泉ヶ丘団地汚水処理施設の円滑な維持管理運営
- ・ 桂ヶ丘汚水処理施設管理基金：桂ヶ丘汚水処理施設の円滑な維持管理運営
- ・ ふるさと・水と土保全基金：桂川町内における土地改良施設の機能を適正に発揮させるための集落共同活動の強化に対する支援事業
- ・ 鉦害復旧かんがい排水施設維持管理基金：鉦害復旧かんがい排水施設の円滑な維持管理運営
- ・ 消防ポンプ自動車購入及び防災整備基金：消防ポンプ自動車購入及び防災に関する整備
- ・ 文化振興基金：文化施設の管理運営及び人材育成事業の円滑な推進

(増減理由)

- ・ 公共事業整備基金：平成30年度決算見込みにおける住宅新築資金等貸付事業特別会計歳入剰余金の一般会計繰入に伴う積立 1,973千円
預金利子積立 716千円
- ・ 泉ヶ丘団地汚水処理施設管理基金：預金利子積立 2千円 施設維持管理費の繰入 Δ1,300千円
- ・ 桂ヶ丘汚水処理施設管理基金：預金利子積立 18千円
- ・ 鉦害復旧かんがい排水施設維持管理基金：預金利子積立 2,304千円 施設維持管理費の繰入 Δ2,406千円
- ・ 消防ポンプ自動車購入及び防災整備基金：消防団用消防ポンプ自動車更新費の計画積立 2,000千円 預金利子積立 4千円
- ・ 文化振興基金：預金利子積立 1千円

(今後の方針)

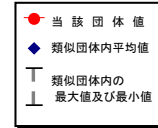
近年の厳しい財政運営状況に鑑み、各基金において具体的な目標積立額については設定せず、歳出抑制に伴う執行残等について積立を行っていく見込みである。また、基金を原資とした債権運用など資産活用による歳入の確保についても行っていく。

(12)市町村公会計指標分析／財政指標組合せ分析表

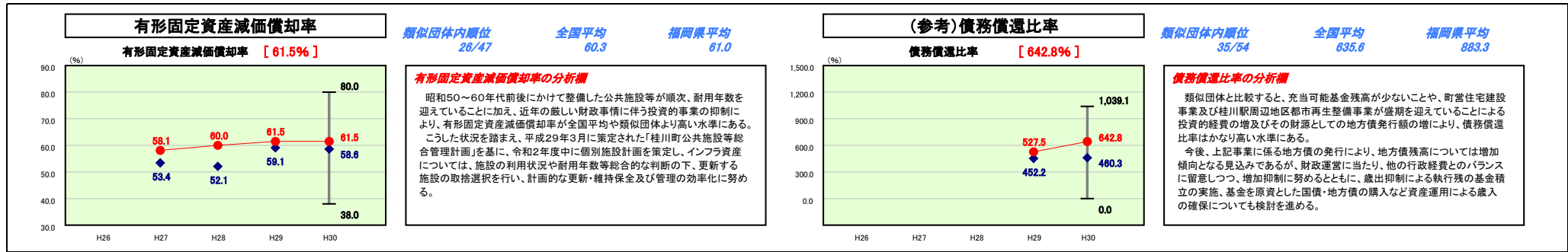
平成30年度

福岡県桂川町

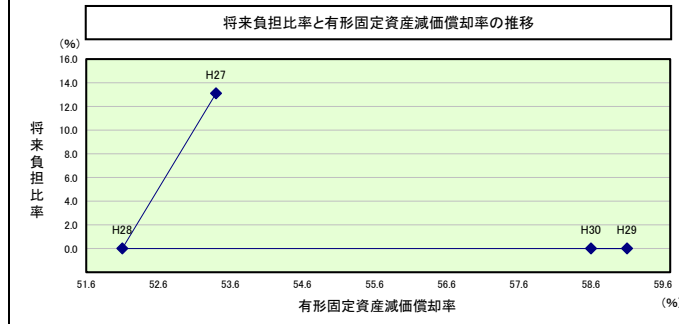
人口	13,535人	(H31.1.1現在)	実質赤字比率	-	%	
うち日本人	13,430人	(H31.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%	
面積	20.14	km ²	実質公債費比率	3.9	%	
歳入総額	5,797,756	千円	将来負担比率	-	%	
歳出総額	5,587,148	千円	市町村類型	H26 Ⅲ-2	H27 Ⅲ-2	H28 Ⅲ-2
実質収支	202,097	千円	(年度毎)	H29 Ⅲ-2	H30 Ⅲ-2	
標準財政規模	3,273,617	千円				
地方債現在高	4,437,228	千円				



- ※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と云う。
- ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
- ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。
- ※ 平成31年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体毎の決算に基づく健全化判断比率等を算出していない団体については、債務償還比率、実質公債費率、将来負担比率のグラフを表記しない。



将来負担比率及び有形固定資産減価償却率の組合せによる分析

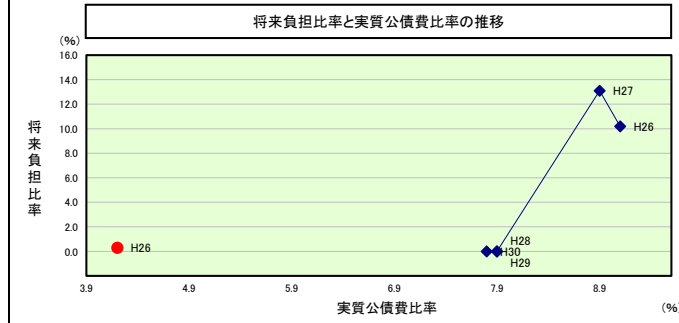


分析欄
有形固定資産減価償却率は類似団体より高い水準にある一方、将来負担比率については主にこれまでの地方債発行の抑制と充当可能基金の増により発生していないため、本町の「当該団体値」が表示されていない。なお、平成29年3月に策定した「桂川町公共施設等総合管理計画」及び令和2年度中に策定する「個別施設計画」において、公共施設については今後対症的な維持管理(事後保全)から、劣化が深刻化する前の計画的な維持管理(予防保全)への転換を推進していくこととしている。今後も歳出の平準化に配慮した計画的な施設更新を実施することにより、健全な財政運営に努める。

(参考)

		H26	H27	H28	H29	H30
当該団体値	将来負担比率	-	-	-	-	-
	有形固定資産減価償却率	-	58.1	60.0	61.5	61.5
類似団体内平均値	将来負担比率	-	13.1	0.0	0.0	0.0
	有形固定資産減価償却率	-	53.4	52.1	59.1	58.6

将来負担比率及び実質公債費比率の組合せによる分析



分析欄
将来負担比率及び実質公債費比率はともに、類似団体平均よりも低い水準で推移している。これは、平成19年度から3年間実施した公的資金補償金免除繰上償還及び繰上償還による地方債現在高の大幅減や、近年の投資的経費に係る地方債発行の抑制等によるところが大い。今後、町営住宅更新事業等の大型事業が盛期を迎えるため、両指数への負の影響が懸念されるが、これまで取り組んできた施策の選択・集中等の歳出改善や、国・県支出金等の財源確保の歳入改善を継続し、安易に後世に負担を先送りすることなく、長期的視野に立った行政運営に努める。

(参考)

		H26	H27	H28	H29	H30
当該団体値	将来負担比率	0.3	-	-	-	-
	実質公債費比率	4.2	3.8	3.9	4.1	3.9
類似団体内平均値	将来負担比率	10.2	13.1	0.0	0.0	0.0
	実質公債費比率	9.1	8.9	7.9	7.9	7.8

(13)-1市町村施設類型別ストック情報分析表①

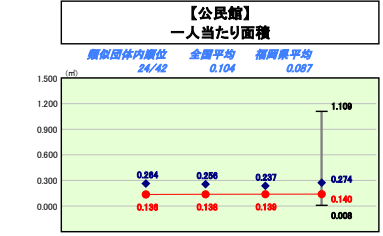
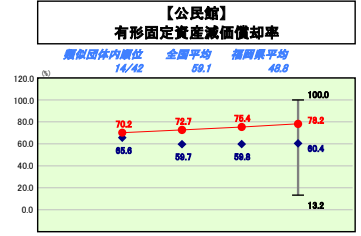
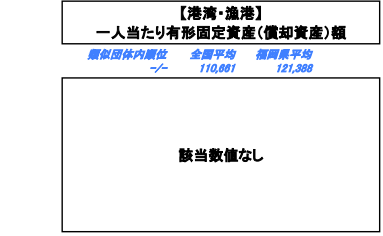
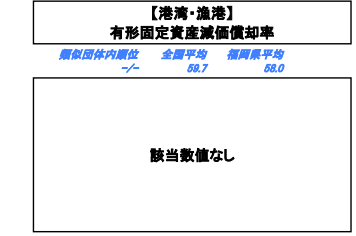
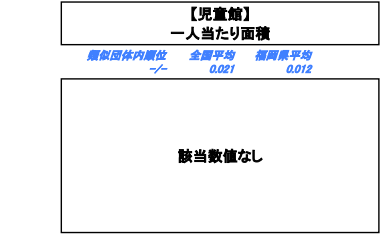
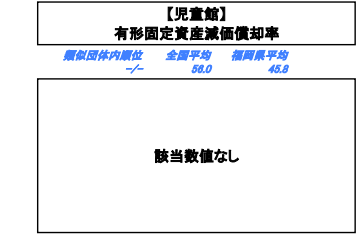
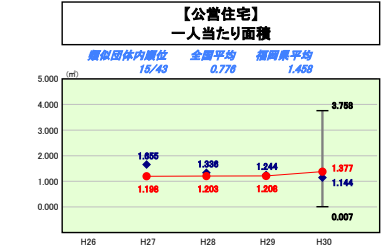
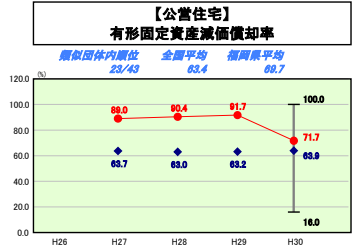
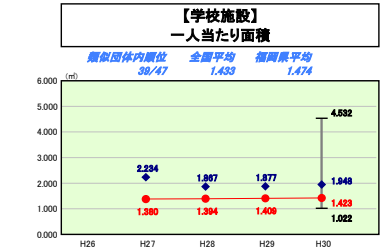
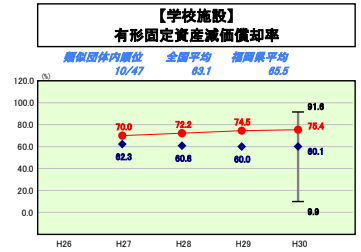
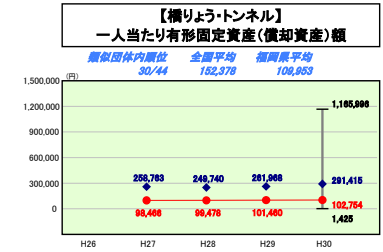
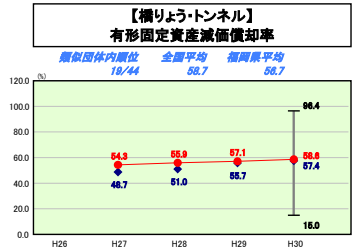
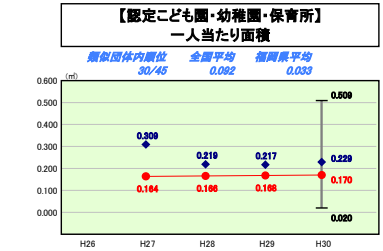
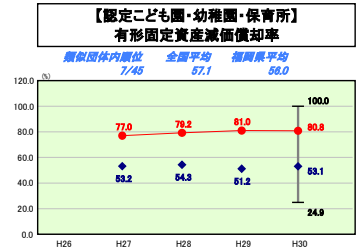
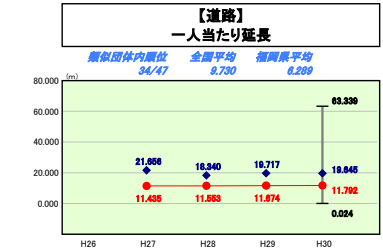
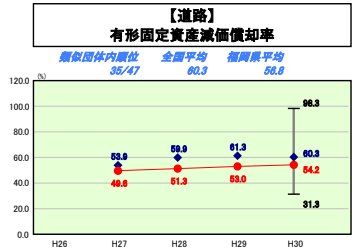
平成30年度

福岡県桂川町

人口	19,636人(091.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	19,490人(091.1.1現在)	道新実赤字比率	-%
面積	20.14km ²	実質公債費比率	3.9%
歳入総額	5,787,756千円	将来負担比率	-%
歳出総額	5,587,148千円	市町村類型	H26 Ⅲ-2 H27 Ⅲ-2 H28 Ⅲ-2
実収支	202,097千円	(年度毎)	H29 Ⅲ-2 H30 Ⅲ-2
標準財政規模	3,275,617千円		
地方債現在高	4,437,228千円		

● 当該団体
◆ 類似団体内平均値
T 類似団体内の最大値及び最小値

※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



施設情報の分析

昭和50～60年代前後に集中して公共施設を整備しており、それらの施設が順次、耐用年数を迎えていることに加え、近年の投資的事業の抑制の影響により、全体的に有形固定資産減価償却率が増加傾向にあり、また、全国平均や類似団体より高い水準にある。中でも特に公営住宅、学校施設、公民館、幼稚園・保育所は70%を超える高い水準となっているものの、公営住宅については平成27年度から計画的に更新・再編・集約化を進めており、平成30年度に新しい町営住宅の一部が完成したため、前年度と比較して有形固定資産減価償却率が大幅に減少している。また、学校施設については令和2年度中に個別施設計画を策定し、施設の長寿命化に取り組むこととしている。幼稚園・保育所については、将来的に少子化に伴い保育需要の減少が見込まれることを踏まえ、当面は現施設の継続的な利用を念頭に、適切な維持管理を行う。

橋りょう・トンネルについても、老朽化に伴い有形固定資産減価償却率が類似団体と比較してやや高い水準にあるが、平成23年度に策定した橋梁長寿命化修繕計画に基づく維持保全に取り組み、経費の削減と長寿命化に努めている。

なお、各施設等の一人当たりの面積は、全て類似団体平均を下回っており、効率的な行政運営ができています。

(13)-2市町村施設類型別ストック情報分析表②

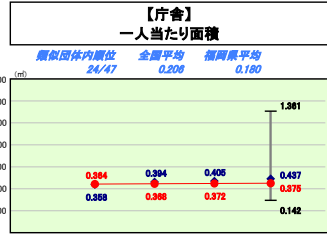
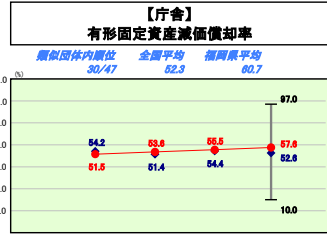
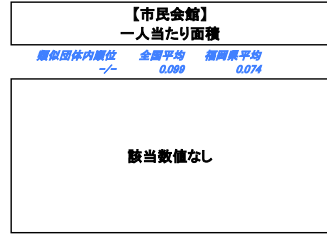
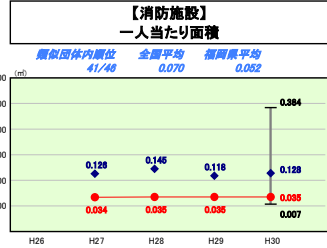
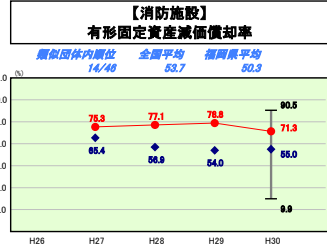
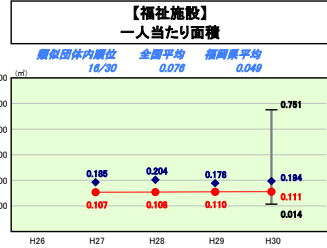
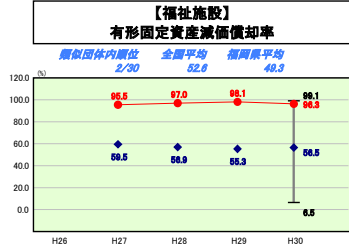
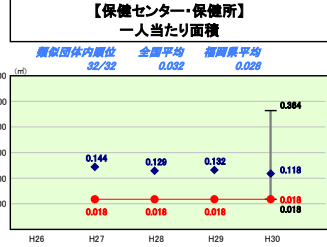
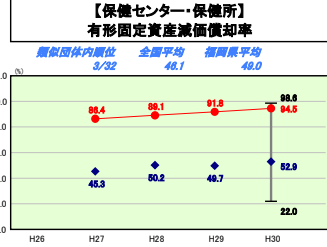
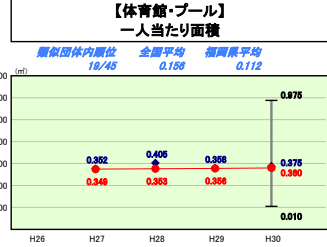
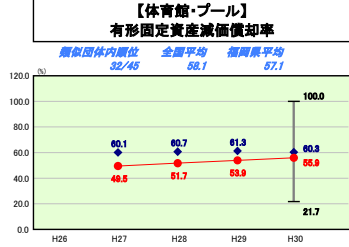
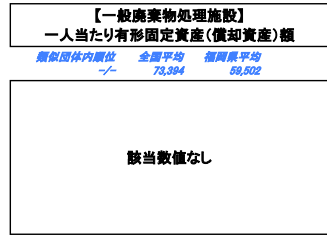
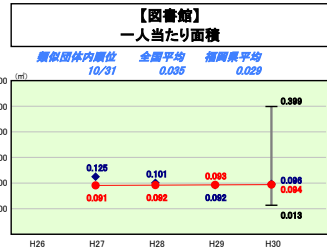
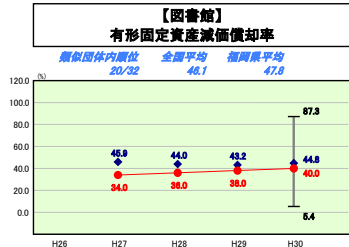
平成30年度

福岡県桂川町

人口	19,636	人(931.1.1現在)	実業赤字比率	-	%
うち日本人	13,490	人(931.1.1現在)	運輸実赤字比率	-	%
面積	20.14	km ²	実業公債費比率	3.9	%
歳入総額	5,787,756	千円	将来負担比率	-	%
歳出総額	5,587,148	千円	市町村類型	H26 Ⅲ-2 H27 Ⅲ-2 H28 Ⅲ-2	
実質収支	202,087	千円	(年度毎)	H29 Ⅲ-2 H30 Ⅲ-2	
標準財政規模	3,273,617	千円			
地方債残高	4,437,228	千円			

- 当該団体の値
- ◆ 類似団体内平均値
- ⊥ 類似団体内の最大値及び最小値

※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



施設情報の分析
 昭和50～60年代前後に集中して公共施設を整備しており、それらの施設が順次、耐用年数を迎えていることに加え、近年の投資的事業の抑制の影響により、全体的に有形固定資産減価償却率が全国平均や類似団体より高い水準にあるが、中でも福祉施設、保健センター・保健所、消防施設が有形固定資産減価償却率が70%を超える高い水準となっている。
 特に、福祉施設は96.3%、保健センター・保健所は94.5%と著しく高い水準となっているが、これは代替施設として平成12年度に開設した『総合福祉センター』が、本分析における福祉施設、保健センター・保健所のいずれにも該当しないことによる。なお、これらの施設については、「桂川町公共施設等総合管理計画」に基づく個別施設計画を策定し、計画的な維持管理(予防保全)を念頭に、施設の延命化を図ることとしている。ただし、平成30年度においては、消防施設において消防団格納庫の全面更新修繕が行われたことや、福祉施設において一部学童保育所として利用されている老人福祉施設「桂寿苑」の改修が行われたことにより、前年度と比較して有形固定資産減価償却率はやや減少している。
 なお、各施設等の一人当たりの面積は、全ての施設において類似団体平均と同水準及び平均以下となっており、効率的な行政運営ができている。